

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の今後の在り方に関する主な論点について

JAXA は、宇宙開発戦略本部の方針（宇宙基本計画等）に基づき、業務を効率的に遂行することにより、我が国全体の宇宙開発利用を強力に牽引する中核的研究開発機関と位置付けてはどうか。

このため、以下の改革を推進すべきではないか。

1. 利用ニーズ（産業振興、宇宙外交を含む）を的確に反映できる研究開発体制の整備

- ・ 政府（宇宙開発戦略本部及び内閣府）が優先順位を踏まえて集約した利用ニーズに基づき、JAXA が業務運営を実施する仕組みを制度的に担保すべきではないか。
- ・ 内閣府の調査分析機能を支援するため、宇宙開発利用に関する国際的な動向等を継続的に調査分析する体制を整備すべきではないか。

2. 事業運営方法の改革

- ・ 事業運営方法全般の合理化、効率化を推進すべきではないか。
- ・ プロジェクトマネジメントの肥大化・形骸化、会議や書類作業の過大な負担によるコスト増加、研究開発期間の長期化等の弊害を改善するため、プロジェクトの規模・リスク等に応じたマネジメントの合理化・効率化（民間との役割分担の見直しを含む）を実施することにより、産業競争力の強化に適した時宜を逸さないマネジメント方式を構築してはどうか。

3. 最先端の研究開発力の強化

- ・ 内閣府において利用府省等のニーズを集約して策定した技術開発計画に基づき、基礎的・先端的技術開発を実施する中核的研究開発体制を構築し、最先端技術の開発機能を充実・強化してはどうか。
- ・ 大学、中小企業等、多様な研究開発実施機関のポテンシャルを活用することが可能な仕組みを構築してはどうか。
- ・ 宇宙科学研究本部（ISAS）の学術部門としての独立性を尊重した運営体制を構築することにより、大学との連携を強化し、研究者の自由な発想に基づく研究開発を促進してはどうか。

4. その他

- ・ JAXA 見直しに伴う関係法令の改正に当たっては、JAXA の業務の目的等を宇宙基本法の基本理念に沿ったものに改正することが必要ではないか。
- ・ 宇宙開発委員会の JAXA 法執行審議会としての機能（長期計画の議決など）は、宇宙基本計画との役割の重複などを踏まえた見直しが必要である。ただし、宇宙開発委員会の果たしてきた安全評価・事故調査など技術的専門的事項に係る役割については、内閣府宇宙部門（宇宙局（仮称））の在り方の検討にあわせ、その取扱いを検討すべきである。

以上